

西田 白井議員はまもなく1期目を終えられるところですが、なぜ政治家をめざされたのですか。

白井 私はいま、橿原市で生活し仕事をさせていただいていますが、生まれ故郷は隣町の高取町です。成人式も高取町で出たのですが、ちょうどその一週間前に当時の高取町長が逮捕されてしまいました。自分たちの成人式は町長不在の成人式でした。おそらく副町長でしたかが壇上に上がり、謝罪のようなものからスタートしました。こんなみっともない思いを自分よりも下の世代の子にはさせたくないというのが一つのきっかけです。その後、学生時代に奈良1区の馬淵澄夫衆議院議員のもとでインターンとして代議士の政治姿勢、また連合奈良の皆さんと政治や選挙にかかわるコミュニケーションをとる中で自分の志として政治家というのを確信しました。

今も仕事で橿原市内の学習塾を経営しているのですが、やはりそこで市内の子どもたちと接する中で、子どもから見た目線で何か足りていないことを聞く機会が多い。特にうちは進学塾ではなく、どちらかと言うと学校へ行くのが苦手な子、ハンディキャップのある子を受け入れている塾なので、そういった子どもたちがもっと暮らしやすくなるように、橿原市の中をしっかりと変える必要があると立候補しました。

西田 自分の仕事や活動の拠点が檀原市だったのでそこで始められた。ハンデ
ィのある子どもたち、誰もが暮らしやすい、そんな市政をめざされている。
今年、コロナウイルスが流行し始めた時、まず学校が休校になり、その後
解除されたのですが、学校に行くということが当たり前とされる風潮の
中で、やはり行けない子、行きたくない子たちのストレスが心配でした。

1期4年の中で、実績を積まれてきたなと思っている中の一つが手話言
語条例です。しっかり制度化されたということがあります。もう一つが公
契約条例。耳慣れない公契約という言葉ですが、これを自ら提案されて形
にしていこうとされていることも聞かせていただきました。

白井 手話言語条例に関しては、母親がずっと手話を習ってしましてそのご縁
で4年前に選挙に立候補する際、耳の不自由な方と接する機会をいただ
いて、当選してから自分も習ってみようというふうに思い手話サークル、
檀原市が主催する手話教室に参加させていただきました。手話というの
は実は2006年まで日本政府が言語として認めていなかったというこ
とがあります。やはり手話というのは耳の不自由な人にとってすごく大
事なツールであって、そういったことも市民に知ってもらい、どんな方で
も暮らしやすい檀原市にしていきたいという思いが、それぞれの当事者
の皆さんにある。それをしっかりと制度化してかたち作っていく。僕が主

幸して前に出てやるのではなく、あくまで当事者の人からボトムアップでやる。その中で例えば市役所とのやり取りや議員の調整だったりを少しお手伝いさせていただいたというかたちになります。

公契約条例に関してはもともと連合南和地協のみなさんと協力しながら勉強会を続けている中で、市の仕事をとっている企業さんで働いている従業員の方にちゃんと給料が行き渡っているのかなというところを疑問に思ったのがきっかけです。今年の6月の橿原市議会の一般質問でも質問させていただき、市長からはまず実態調査をしっかりとしますという確約をいただきました。この実態調査の結果を踏まえて必要であるならば奈良県内の初めての賃金型の公契約条例の制定というのをしっかりとめざしていきたい。

西田 手話言語条例は、災害が起きた時や今回のコロナのような非常事態、緊急事態に例えば連絡や情報を知りたいという時に耳が聞こえない方であったり、相手が手話がわからず置き去りにされてしまうということがあるので、橿原市で制度ができたのは本当によかったなと思います。公契約条例はネットで白井さんの発言を見たのですが、橿原市では10年前から提案されているにもかかわらず、この間どうなってきたのかということはかなり追及され答弁を引き出したということで、よく勉強されていると

いう印象を受けました。今コロナで経済が冷え込んでいる中、個人の所得、収入が上がらないと個人消費が増えていかない。奈良県は10月から最低賃金が1円上がりました。個人の収入が増えるということでは、奈良県と大和郡山市に公契約条例があるのですが、これは最低賃金をベースにされています。いま賃金型とおっしゃいましたが期待をしておりますのでぜひ頑張ってくださいと思います。

今いろんな政治家の方の発言や総理大臣が変わり急にいろんなことを変えようとされており自治体の混乱が起きたりしていますね。行政改革とか規制改革という中でも、そのことの基本が基礎自治体にあるのではないかなと思っています。

政治信条や政治家をめざすきっかけは一本筋が通っていて今後、橿原市をけん引していただける議員だと思うのですが、何か1期の中で心残りになっていること、反省すべき点はありますか。これを活かしてさらにやりたいことなど。

白井 いまやっていることや取り組んでいることにご理解いただいている方もたくさんいただいているのですが、もっと議員から、僕だけでなく政治家一人ひとりの課題だと思いますが、もっと情報を発信し政治参加、政治に興味を持ってくださる方が増える必要があるかなと思っています。

今回このコロナ禍においてはやはり自分たちの住んでいる街が自分たちにどれだけ寄り添っているのか。否が応にも注目せざるを得ない状況が市民の皆様の中に広がったと思うのですね。実際に政治に興味を持ってくれる人がぐっと増えて、例えばコロナが流行ってからの1か月2か月間でツイッターのフォロワー数が300人400人増えたのです、一気にポーンと。それだけやはり情報発信だったり政治家がどのように考えているのかということに興味を持たれている方がたくさんいらっしゃる。市、県、国を問わずしっかりと言葉にしてそれぞれの行政がどういったことを進めていくのか。市民の方、県民、国民の方に政治に触れあっていたような活動をこれからもしていきたいと思っています。

西田 なるほど。やはり政治に関心のない人にしっかりと、政治とは生活に密着しているもの、いわば生活そのものが政治なのだ気付いてほしい。とはいえ、いろんな選挙になると投票率が低く、行かない人が多い。その行かない人にどう届けていくか。求めているものは今の政治に無い、あきらめ感だとか、その辺を市議会の中でどう打破、克服していくか。何かヒントはありますか。

白井 そうですね、さきほどの手話言語条例もそうなのですが、トップダウンで何かをやるよりもボトムアップでしっかりと底上げをしていくというの

が理想的なやり方かなと思っています。よく国政、県政、市政というふうに階段状に言われることがあるのですが、僕は全くそうではないと思っています。市政は市政としてしっかりと市民の方に一番近い政治家として声を聞いて声を行政に届けていくという活動をしっかりと広げていく。そのことが直接的に、例えば国政選挙などにも関係してくるかなと思うので市政の、一番近いところで政治を体験するというのがそういった政治参加のヒントになるかなと思っています。

西田 榎原市といえば昨年市長が変わりましたね。やはり執行権を持つ首長と市議会の方とそれぞれ役割が違うと思うのですが、やはり首長が変わるというのは大きく変わることでですか。

白井 そうですね、やはり市長さんが変わられて進むこと、止まることというのはどうしても出てくるかなと。市議会と行政側、市役所側はよく両輪であるといわれるのですね。僕が思うのは両輪であったとしても空転していたらまったく意味がなくて、何かを前に進めるときって物理法則でもそういうのですが摩擦の力があるから前に進むのですね。だから市議会と行政がしっかりと、悪い意味で摩擦するのではなくていい意味でお互いにブラッシュアップ、磨きあって前に進めていけば市民の方々が喜んでいただけるような榎原市につながっていくのではないかなと思っています。

西田 いろいろお聞きしたいことがあるのですが 1 期目ももうすぐ終了ということで、手話言語条例や公契約条例ということで形に見えて着実に進んでこられました。これから先、白井議員が何をめざされるのか、思いや政策があれば教えていただきたい。

白井 僕たち榎原市議会議員は年明けすぐに改選がございまして、そこで市民の方にご信託をいただいての話になりますが、一番大事にしたいのはいま、榎原市に住まわれている方々や働いている方々を徹底的に大切にしたいという思いがあります。それは老若男女、たとえば障害がある、障害がないにかかわらず本当に密接した、しっかりとしたフォローを榎原市でできるんだというのを証明していきたいなというのが一番にあります。その中で特に子どものこと、これはやはり僕もずっと教育に 10 年以上携わっていますからその中で足りていない部分や、子ども目線からこういったことってどうなっているのかということと言われることがあります。僕がこの 4 年間に一つしたことの中に色覚チョークというのがあります。それは、ある生徒が色覚特性を持っている生徒で、「先生、教科書とか黒板の字のチョークが見にくい」と言ったことがきっかけです。それを議会で発言させていただき、榎原市として色覚チョーク、色覚特性を持っている子どもも見やすいチョークを積極的に導入していきますという答弁を

いただいたのですが、これもその一人の生徒がいなかったら檀原市の中でも議論されることはなかったことです。そういった子どもの目線でストレートに「こういうところどうなってるの？こういうところ直らへんの？」というようなことをいただいたら、議会に伝えていきたいなと思っています。

西田 白井さんが出されている市政報告の中にも「みんなが見えるチョークへ」ということで報告していただいています。白井さんの政治信条がいま申し上げた、手の届く範囲の人を何よりも大事にしたい、本当に私も基本だと思います。平和だとか差別はだめだとか言っている方も時々セクシュアルハラスメントの発言をしたりとか、そんなことも見受けられます。隣の人を大事にできないで戦争反対という話とか。やはり一人ひとりを大事にして、そして争いごとをなくしていこうということだと思うので、本当に基本に忠実にされていると思っています。

いろいろとまだまだお聞きしたいことはたくさんあるのですが今日は白井さんの横顔や、ここは譲らないぞという政治信条、来期に向けての決意もお聞きしました。是非檀原市を引っ張って行っていただきたいと期待しております。今日はほんとうにありがとうございました。